



# Cabling guideline 2023

国際大会を想定した配線方法の導入

# 1. 国際大会の配線ルールについて

- ・ ケーブル配線では、実際に必要となるケーブル長の確認ができないと切断することはできない。  
\* 全国では切り出しの工程が無いので除外。
- ・ 国際大会ではMethod AとMethod Bの作業方法で行わなければならない（YouTubeの配線作業動画参照）

Method A: <https://www.youtube.com/watch?v=jF9dal-wqbw>  
箱から1本ずつケーブルを出し配線する作業。

Method B: [https://www.youtube.com/watch?v=ph\\_X6mueVAU](https://www.youtube.com/watch?v=ph_X6mueVAU)  
1本目でケーブル長の確認をし、残りのケーブルをまとめて切断配線する作業。

## 2. STPケーブルと24対のドラム出しを想定した配線の導入

- STPと24対ケーブルはドラム出しスキルの対応  
1本ずつ片巻で準備を行う。
- 配線作業はまとめて配線可能。



59回課題ベース (MC3) : 6本 (10m)  
(MC3') : 6本 (20m)  
(MC1) : 1本 (10m)

- ドラム状態 (Vcom) 直径0.45m  
準備状態：輪の直径0.45m以下にして準備すること。



### 3. UTPケーブルの箱出しを想定した配線の導入

- UTPケーブルは箱出しスキルの対応  
59回課題ベース（MC2）： 12本（10m）
- 箱出しの際に八の字に巻きとりながら  
必要長を取り出すスキルが必要。
- UTPケーブルは競技前にケーブルラック  
にかけて準備しておく。
- 競技開始後  
配線前に1本ずつ巻き取ってから配線する。  
UTPもまとめ配線可能  
(必要数はLevelごとにあわせて選択)



## 4. ケーブル余長の整理方法

- 配線後の余長整理については、1本ずつになっているケーブル束をまとめて整理しなければならない。（シールドも同様）

注：分かりやすくベルクロを付けています。



OK



NG